

Stand UP!!!! NO.37

2019年4月26日

発行責任者 佐久間 晃史

編集責任者 情 宣 部

福知山線脱線事故から14年

4月25日、福知山線脱線事故（死者107名、負傷者562名）から14年が経ちました。事故当時、事象を起こした運転士への過度な『日勤教育』や運行最優先の『企業風土』などが問題視されました。

「評価制度の暴走」がもたらしたもの

この事故の5年前にJR西日本は人事賃金制度の改正を実施し、これまでの年功型賃金から能力給型賃金へと変更されています。自分の給料は上司からの「評価」によって変わるため、上司へのゴマスリや密告が相次ぎ、また管理者による高圧的な社員管理が横行し、少しのミスも許されないギスギスした職場風土となってしまいました。当該運転士も「遅延したら乗務員を降ろされる」との過度なプレッシャーから運転操縦に集中できず、ブレーキ手配が遅れた結果、脱線転覆に至ったとされています。

何でも言い合える職場風土を創ろう！

一方、JR貨物会社は4月1日に人事賃金制度の改正を実施し『評価制度』が本格的に導入されました。会社は導入にあたって「きちんと真面目に働く社員が報われる会社」を実現したいとしていますが、私たちの仕事は何をもって「真面目に働く」と評価されるのでしょうか？

チームワークが重要になる鉄道業では「社員間の競争意識」は全く必要ありません！安全な職場風土を確立する為に、おかしい事はおかしいと、全員で声をあげていこう！！